

(1) 概要

- 7月に実施した利用者アンケートの意見等をふまえ、10月に館内のWi-Fi設備の更新や3月に防犯カメラの設置、会議室のテーブル・パイプ椅子の買い替えを行った。
- 各種講習会（要約筆記<全3回>、中級音訳<全11回>、初級手話<全35回>）を開催した。
- 3月に「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催し、参加者は43名であった。「地域の社会資源を知って、困った時に備えよう！（身近に相談できる人はいますか？）」をテーマに、箕面市を拠点に活躍されている4名の福祉専門職を招いて、講演とパネルディスカッションを行った。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	各種講習会（要約筆記・音訳・手話）の実施	○要約筆記講習会を全3回実施し、参加者は18名であった。 ○中級音訳講習会を全11回実施し、参加者は4名であった。 ○初級手話講習会を全35回実施し、参加者は15名であった。
2	障害者等の理解促進に係る啓発事業の実施	○3月に「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催し、参加者は43名であった。「地域の社会資源を知って、困った時に備えよう！（身近に相談できる人はいますか？）」をテーマに、箕面市を拠点に活躍されている4名の福祉専門職を招いて、講演とパネルディスカッションを行った。 ○コロナ禍のため、例年12月に実施する箕面保育園との餅つき会は実施できなかったが、ささゆり園の園庭にて「芋づるリースの贈呈」や「車椅子体験」での交流を継続した。
3	新規受講者の開拓	○茶道教室（受講者6名）、華道教室（受講者7名）は毎年受講者が固定されている状況であったが、新規利用者の開拓に取り組み、華道教室は8月に新たな受講者が1名増となった。
4	館内の環境整備	○7月に実施した利用者アンケートの意見等をふまえ、10月に館内のWi-Fi設備の更新、3月に防犯カメラの設置、会議室のテーブル・パイプ椅子の買い替えを行った。 ○設備・物品の状態の点検、不要物品の整理を半年毎に実施した。
5	駐車場の改善の検討・協議	○箕面市との協議は継続したが、具体的な運用の実施には至らなかった。
6	園庭の有効活用方法の検討・協議	○箕面市との協議は継続したが、具体的な運用の実施には至らなかった。

(3) 今後について

- 各種講習会、地域交流、障害者に関する啓発事業等を継続的に実施していく。
- 館内の環境整備や駐車場の整備、園庭のあり方などについて、箕面市との協議を継続的に行っていく。

(4) ささゆり園利用状況

	令和2年度	令和3年度	対前年度比
開館日数	321日	320日	99.7%
利用件数	1,212件	1,164件	96.0%
利用件数/日	3.8件	3.6件	94.7%
利用者数	13,516名	12,074名	89.3%
利用者数/件	11.2名	10.4名	92.9%
利用者数/日	42.1名	37.7名	89.5%

事業名	令和2年度		令和3年度		対前年度比 (人数比)	
	件数	人数	件数	人数		
障害者社会参加促進事業	35	212	36	266	125.5%	
[内訳]	①茶道教室	18	100	18	115	115.0%
	②華道教室	17	112	18	151	134.8%
ボランティア育成事業	49	486	48	672	138.3%	
[内訳]	①手話講習会「入門・基礎課程」	38	412	35	530	128.6%
	②音訳講習会<令和3年度：中級>	11	74	10	72	97.3%
	③要約筆記講習会	0	0	3	70	-
啓発事業（障害者問題市民講座）	1	30	1	43	143.3%	
貸館事業	1,127	12,788	1,079	11,093	86.7%	
[内訳]	①障害者団体	518	6,901	472	5,891	85.4%
	②ボランティアサークル	333	3,165	286	2,737	86.5%
	③外郭・行政関係	144	1,802	133	1,540	85.5%
	④その他	121	909	153	887	97.6%
	⑤IT室	11	11	35	38	345.5%
合計	1,212	13,516	1,164	12,074	57.8%	

※会議室等使用団体数(令和4年3月31日現在)

- ・ 定期利用団体：44団体（対前年度比 5増）
- ・ 随時利用団体：7団体（対前年度比 12減）
- 【合計】 51団体（対前年度比 7減）

(1) 概要

- 医療的ケアが必要な新規利用者3名を4月から受け入れ、医療的ケアニーズがより高まったことから、8月より看護師の配置体制を常時2名から3名体制に拡充した。
- 喀痰吸引研修（実地研修）を7～9月にかけて実施した。職員16名（添乗員含む）が受講し、利用者11名に対して4行為の医療的ケアが実施できるようになった。
- 新規利用者が3名、途中退所者が2名で利用契約者は24名（前年度比+1名）となった。また、コロナ禍の影響により1名が年間を通して自主休所したが、臨時的支援を実施したことや他利用者の利用率が比較的安定していたことから、平均利用率は前年度同様87.5%であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	多様な活動による支援の実施	○コロナ禍ではあったが、利用者を11グループに分けて感染対策を行いながら、10月に伊丹スカイパーク、みのおキューズモール、万博公園、五月山公園での園外活動を実施した。
2	延長支援の実施	○引き続き、個別支援計画に基づき生活介護の延長支援を男性5名、女性1名について実施した。また、延長支援の時間を活用し、嚥下機能トレーニング等も実施した。
3	入浴支援体制の見直し	○日中活動に重点を置き入浴サービス日や開始時間等を随時調整した。 ○入浴希望者に対して、他の社会資源（ホームヘルパー、訪問入浴）の情報提供も行った。
4	外部評価（指定管理アンケート・第三者評価）をふまえた対応	○1日の業務の流れに沿って、業務マニュアルを整備した。 ○利用者家族との交流会を年3回実施し、前年度の実績報告ほか利用者や施設での取り組みなどに関する情報共有を行った。 ○障害特性に応じた支援の改善や職員の資質向上のため、専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、嘱託医1回/月）を受けた。
5	介護職員による喀痰吸引等の実施	○新規利用者など、より多くの利用者に医療的ケアを実施するため、喀痰吸引研修（実地研修）を7～9月にかけて実施した。職員16名（添乗員含む）が受講し、利用者11名に対して4行為の医療的ケアが新たに実施できるようになった。 ○上記研修実施により、生活支援員等の職員17名全員が喀痰吸引等を実施できる体制となった。
6	虐待防止・サービス向上の取り組み	○チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。また、結果をもとに改善計画を作成し、研修実施などにより次回のセルフチェックでの改善につなげた。 ○12月～1月に法人全体で開催した人権研修に24名の職員が参加し、グループワークを通して不適切な支援などについて考える機会を設けた。 ○前年度の事故・ヒヤリハットの内容を分析し、その対応について9月の虐待防止・サービス向上委員会で報告するとともに、施設内で共有した。 ○市内の医療機関と連携し、園内での健康診断、歯科検診を新たに実施した。 ○医療的ケアが必要な新規利用者3名を4月から受け入れるなど、医療的ケアニーズがより高まったことへの対応として、8月より看護師の配置体制を常時2名から3名体制に拡充した。
7	感染症対応の強化	○8月に感染症認定看護師による実地指導を受けた。消毒・清掃の要点などの指導を受けて、感染症対応の改善につなげた。 ○職員2名の感染者は出たが、施設休所をすることなく、年間を通して営業を継続することができた。
8	医療的ケアのある利用者の地域生活支援の検討	○利用者を通して新たに2件の医療機関等とのつながりを持ち、年3回の家族交流会の場で訪問看護や訪問歯科についての情報を提供した。
9	利用率向上・収入増に向けた取り組み	○新規利用者が3名、途中退所者が2名で年度末の利用契約者数は24名となった。 ○コロナ禍の影響により1名が年間を通して自主休所したが、臨時的支援を実施したこと、他利用者の利用率が比較的安定していたことから、平均利用人数は前年度同様17.5名であった。 ○介護給付費収入は8,228万円（前年度7,867万円）となり、収支差は993万円（前年度1,376万円）であった。

(3) 今後について

- コロナ禍での敷地内・敷地外活動、支援のあり方を引き続き検討・実施していく。
- 高まる医療的ケアニーズに対応できるよう、引き続き看護師確保を行い、常時3名体制を維持していく。
- 医療的ケアをはじめ利用者の健康管理を細めに行い、90%前後の平均利用率を維持していく。

(4) 主な活動内容

- ①行事等（プール、園外活動、忘年会、クリスマス会、年度末イベント等）
- ②健康活動（エクササイズ、足浴、エアマット、ハンモック、スノーズレン、健康診断等）
- ③創作活動（さをり織り、組み紐、季節毎の展示物作成等）
- ④文化活動（楽器演奏、カラオケ、コンサート、ボウリング、ボッチャ、園芸活動等）
- ⑤屋外活動（個別外出、散歩、清掃活動等）
- ⑥作業活動（空き缶つぶし等）
- ⑦専門職による相談・指導（作業療法士・嘱託医への相談、音楽療法等）

(5) 医療的ケアの実施状況（令和3年度 利用対象者 16名）

内 容		人数	内 容		人数
たんの吸引	口腔内	14名	酸素投与（緊急時含む）	3名	
	鼻腔内	10名	人工呼吸器管理	2名	
	気管カニューレ内部	6名	バイパップ	1名	
経管栄養	胃ろう	7名	カフアシスト	2名	
	腸ろう	2名	ブジー	1名	
	経鼻胃管	2名	浣腸（摘便）	1名	
経管による与薬	胃ろう	3名	留置カテーテル	1名	
	腸ろう	1名	導尿	1名	
	経鼻胃管	1名			
吸入		1名	合 計（延べ人数）	59名	

(6) 在籍者状況（令和4年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
令和3年度	24名	40.0歳	10.1年	87.7%	17.5名	
令和2年度	23名	42.3歳	10.6年	90.6%	17.5名	
令和3年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	24名	0名	0名	0名	0名	0名

(1) 概要

- 利用契約者数は9名（前年度11名）、平均利用者数/日は2.1名（前年度2.4名）であった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	サービスの質的向上	○入浴ヘルパー1名を採用し、新任研修及び介護技術指導を4回実施した上で入浴業務に従事させた。
2	入浴設備更新の検討	○10月及び12月に入浴設備（特殊浴槽の担架専用スポンジマット、バッテリー）、3月に浴室用介護リフトを更新した。
3	利用方法等の検討・協議	○利用年限、利用回数等の基準について箕面市との協議には至らなかった。
4	入浴ヘルパーの確保	○継続的に募集の取り組みを行い1名を採用したが定着には至らず、前年度に引き続き、入浴ヘルパーは男性2名、女性1名体制であった。 ○入浴ヘルパーだけで対応できない時は、生活介護事業の職員で対応した。

(3) 今後について

- 入浴設備の点検を行うとともに、箕面市と協議しながら必要に応じて設備の更新を行っていく。
- 入浴利用者に対して、ニーズを把握するとともに、必要に応じて他の社会資源の情報提供や調整を行い、居宅介護、訪問入浴サービス等への移行促進も行っていく。

(4) 施設入浴サービス利用状況

	令和2年度	令和3年度	対前年度比
実施日数	243日	242日	99.6%
利用者数	589名	510名	86.6%
利用者数/日	2.4名	2.1名	87.5%